

チームオレンジ ～ このまちで自分らしく生きていく ～



1.基本情報(令和6年12月現在)

市・町名	新上五島町		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
16,673人	7,626人	45.70%	214km ²

2.チームの概要

チーム名	チームおれんじ新上五島町「チームオレンジ青方」		
開始時期	R5 年 6 月 12 日 ～		
実施主体	☐ 市町 ☐ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()		
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員		
メンバー構成	青方地区住民20人		
活動頻度	・毎週1回		
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの 基本について	☒ 3つの基本を満たしている ☐ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☒ 市町からの補助 ☒ 会費・参加費 ☐ その他 () ※上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☒ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3.チームオレンジの設置に至ったプロセス

当町は離島で人口減少が著しく、高齢者世帯が増えている。住民ボランティアが立ち上がり地域に根付いた通いの場を開始した。地域の中に認知症の方もいて、その方の参加もあり、地域住民で支えている。

4.活動内容

- ・毎週1回地区公民館で住民主体の通いの場を実施。
- ・通いの場での活動は参加者の特徴に合わせて柔軟に取り組んでいる。
- ・認知症の方の得意分野を活かしボランティアとして活動している方もいる。

5.活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

既存の地域の通いの場では認知症の有無にかかわらず自然と助け合い活動ができていることが多い。

6.ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

包括支援センター職員と島内の認知症支援推進団体の講師で役割分担し、地域での社会参加が具体的にイメージできる内容とした。

7.活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

さらに認知症高齢者に対する意識が高まった。

【課題】

参加しない方への支援。

8.チームのアピールポイント

医療職経験者の割合が多く、通いの場参加者の各個人の健康状態の把握、管理が行われている。通いの場では、これまでの職業経験を活かしたボランティア活動ができ、みんなが生き生きとした表情で楽しく参加できている。

9.今後の活動について

- ・もしも認知症になった時に備え、意思表示を事前に把握しておくことも必要だと思うという意見があり、「思いを伝えるこれからノート」(町版エンディングノート)の活用をすすめたい。
- ・認知症の理解を深めるために通いの場での研修を継続していく。